

第3回学校運営協議会

国分寺東小学校会議室にて

1 日 時 令和2年2月26日(水) 10:00~13:00

2 参加者 学校運営協議会委員

 (本校校長)
※委員、委員は欠席
地域学校協働活動推進委員
事務局 (本校教頭)、 (本校教務主任)

3 内 容

(1) 6年生を送る会 参列

(2) 学校運営協議会

① 6年生を送る会の感想

② 協議内容(要旨)

ア 令和元年度 学校評価(教育に関するアンケート)について

- ・児童と教職員の評価はほぼ一致しているが、保護者は厳しい評価である。親は子供に期待している分、学校へ要求しすぎているのではないか。学業は学校で、生活や社会のルールは家庭や社会で教えるものである。しかし、家でできないことを学校でお願いするという考えの保護者は多い。働いている親が多いので、子供と接する時間が少ないのも影響していると思う。何かちょっとしたことで先生方に意見を言うような保護者が多くなっているのではないか。
 - ・保護者の評価が低いのが気になったが、親の子供に対する期待の裏返しなのかと思った。質問項目19「学校でのことを話す」というのが3年間で最も低いのが気になる。子供が振り返りながら学校のことを話せるように親も働きかけたらよいのではないか。
 - ・質問20「学校へ行くのが楽しい」ということに、楽しくないという意見がある。学校は楽しいところだと祈っているし、楽しい場であってほしい。「常に子供のケアをできるような相談室があるといい」という保護者の意見があったが、実際にはどうなのか。
- 相談室は、主に月1回勤務するスクールカウンセラーが使用している。普段は、保健室で養護教諭がその役割をしていることが多いが、けが人や病人がいたら、その対応が優先される。また、今年度は、学力向上加配として教員(講師)が1名配置され、現在は多くのクラスにTTとして授業に関わっている。殆どのクラスに入り、多くの児童のつぶやきを拾ったり、相談を受けたりすることもしている。
- ・親の目線、子供の目線と結果を見ると親の要求度は高い。保護者のアンケートを読むと、家庭の問題が忘れられているのではないか。一般的にも、最近の保護者は、「消費者感覚」を潜在的にもち、学校をサービス業として見ている傾向がある。自分がサービスを受ける。それを受けられないと不満を表すのではないか。
 - ・挨拶の指導、学校は一生懸命やっている。挨拶や言葉遣いは、家庭の問題。挨拶を家庭でも行っているのかどうかも考える必要がある。朝、立哨をしていると、子供たちの挨拶はできていると思う。大きな声でできる子とそうでない子がいるがそれも個性である。
 - ・社会環境が変わり、バブルがはじけた1990年代から共働きの家庭が増えた。所得も思うように伸びず、やむなく働かなくてはといういらだちもあるのではないか。社会全体で寛容性が失われている。来年度から学習指導要領が変わり時数が増え、やることも増える。一方で働き方改革への取組もある。先生方にとって受難の時代と言える。学校でできないことを、地域や他の団体の力を借りて行うという取組を進める必要がある。
 - ・自分も働きながら子育てを行い、子供に関わる時間をつくってきた。もっと子供に関わりたいと思う親もいるし、関わるができるのにやらない保護者もいるので

はないかと思う。学校だけに要求するのではなく、学校で勉強したら、保護者は家庭で教育しなければならない。

- ・質問17「努力を認め、励ましてくれる」の項目で、認められていないと感じている子供もいる。自分をあまり表現できず積極的に関われない子供がいる。ほめて寄り添う教員が多いことが大切である。
- ・いじめ等についての記載もあった。担任の学級経営に大きく関わることだと思う。言った子、やった子を呼び出して指導するだけでなく、クラス全体でいじめに対して考える時間をつくってほしい。みんな考えて、嫌なことをされたりしたりするのはどうかをしっかりと考えてほしい。
- ・生活や学習面でいいところがあったら連絡をしてくれる先生がいる。先生の子供に対する思い、とても感謝している。
- ・家庭内のコミュニケーションが大切である。親も仕事しているし、子供の習い事などで時間がない。動画やゲームは、ダメというわけではなく、メリハリが大事だと思う。ゲームを始めたとき、子供に何時で終わりと親から言うのではなく、子供が「何時までには終わりにする（やめる）。」と言わせるようにしている。親子の関係性がよくないと問題も起きると考えている。
- ・質問8「子供が身の回りの整理や掃除を進んでしている」の項目で、保護者の半数以上がしていないと書いている。これは親の指導がどうなのかということについているようなものである。子供は親の姿を見ている。家できちんとできていればこのようなことにはならないのではないか。
- ・今年、4年生のしめ縄づくりの手伝いをさせていただいた。地域の人の思いをうけ、子供たちはしっかりと取り組んでいた。自分のつくった作品を持ち帰る姿はとても生き生きとしていた。学校でできないことは地域に求めてよい。公民館では、女性は来ることは多いが、男性はなかなか来ない。しめ縄づくりのため、あれだけ多くのおじいちゃんたちが準備や当日活躍していたことが素晴らしい。
- ・6年生を送る会で1～5年生が一生懸命取り組む姿もすばらしかった。今回の資料だけを見せるとマイナスに見えるが、今日の姿を見て、けっしてマイナスではないと思う。学校に要求しすぎているのではないか。学校は集団づくり、仲間づくりの場だと考えている。先生方も要求しすぎであると思っていないのか。
- 正直、全く感じてないわけではないが、保護者がそういう意見をもつことも理解できる。学校と保護者が一緒にやっついていかなくてはならないと考えている。
- ・家庭教育がしっかりしているという前提が必要。その上で、家庭の時間を増やす、話す時間を増やすということになる。家の掃除や片付けは、親がやってしまうことが多いと思う。子供に親は甘い。それを見ている姑がイライラしているという話も聞く。
- ・保護者のコメントがたくさん出たのはよかった。しかし、いじめに関することは気になる。ここは学校でよく守ってほしい。
- ・先生方に関する意見も、配布物を忘れる・遅れる、言葉遣いが悪いなど、心配である。改善すべきことはしっかりと改善してほしい。
- ・この学校運営協議会として、できることはないか。また、挨拶の現状を家庭にフィードバックしているのか。「挨拶の基本は家庭にあるんですよ」と保護者が気付くようにした方がよい。そういう場があるとよいのでは。
- ・更生保護女性会で、子供たちの預かり見守りをしている。最初のころは保護者が子供を連れてきて名簿に丸付けて「はい。」と言って終わりだったが、最近では「お願いします。」と言ってくださる保護者が増えた。私たちも、「お預かりします。」という声掛けをしている。少しずつ、こちらからの声掛けして対応してくれる親が増えてきた。アンケートの数字だけでは評価できない。
- 貴重なご意見をいただいた。児童・保護者・教職員と目線が違うので評価が違うのは仕方がない。数値が2点台のものについては、やはり問題があると考え。「挨拶、言葉遣い、自分のことは自分でする」これらが緩まないようにしていかなければと教職員と共有している。
- 本校の子供たちは、頑張っている。300名の子供が集団生活しているので、何事もないということはない。楽しいことばかりではなく、辛い気持ちになることもある。保護者が厳しい意見をもつのは当然であり、それをしっかりと受け止めなければと考えている。学校が100点満点とは思っていない。

- 校長という立場で見れば、教職員も若手、ベテラン、それぞれに持ち味があるし弱点もある。改善しなければならないことは繰り返し指導している。こうすれば100点になるというマニュアルはないので、気付いたところから改善していきたい。
- 今まで地域に守られてきたことが本校の強み。それぞれの立場で学校や子供たちに行っていることが最大の貢献となっている。見守り、しめ縄づくり、チューリップ植え、読み聞かせなど、ぜひ今後も続けていただき、気付いたことを伝えていただければありがたい。これからも、いろんな方から意見をいただけることが願いである。
- 地域の安全に関して、先日、東方台地コミュニティーで話す場をつくっていただき、感謝している。次年度に向けて、メディアとのつきあい方などについても考えている。ネットに依存しているという子供はいないと思うが、市内でも、ネットゲームを遅くまでやっていたり課金をしていたりしている子供がいると聞いている。家庭や地域で、どういう取組をしていけばよいかという意見もいただきたい。また、地域の力を借りるという点から、学力向上に向けて地域と協働できることも模索していきたい。
- 保護者へのフィードバックについては、今回の分析の結果など、教頭も苦勞してまとめ配布している。学校だより等でも折に触れて伝えているが、すぐに理解してもらえないというものではない。地域に浸透していくためにも、この場での話をさらに地域で広めていただきたい。児童が、「学校は、辛いこともあったけど楽しいことが多かったよ」と思えるように、いろんな先生と関わって学び、成長していけるように、よりよい学校を目指していきたい。

③ 事務連絡

次年度の学校運営協議会について

(3) 給食試食、懇談